

「旬刊ACCESS」第516～517号労組大会特集号によると、日貨労第33回定期大会において、「昨年の関東地本大会が顧問委嘱を巡って混乱し、大会後に解決に向けて話し合いの場が持たれたが、その中で組織破壊者と規定しているJR東労組一部OBが関東地本青年部役員を集めて『勉強会』を行っていたという組織介入が発覚、現在では地本役員間の内部対立に発展、総団結に拘わる組織問題になっている」と掲載された。

日貨労内部の主導権争いで大混乱か!?

「組織破壊者」と規定するJR東労組OBの組織介入?

同「旬刊ACCESS」には、「議案書とは別に『総団結に向けた特別議案』が口頭で提起され」、「約30分の集中質疑を経て『調査委員会』の設置が決定された」と掲載。「統制委員会」設置ルールに準ずる形でされ、同委員会による徹底調査のうえ問題解決にあたりとされ、すでに複数回の調査委員会が開催されているとのこと。

また、関係者によれば、「総団結に向けた特別議案」では、次のような事柄が口頭で提起されたようである。『①昨年の関東地本の定期大会では、前地本委員長への顧問委嘱が提起されたが、規約諸規則に定めがない中で強引に進めようとしたことが問題視され、大会が混乱。その後、地本では規約諸規則の改正等の議論が行われてきたが、その過程でJR東労組一部OBによる組織介入があり、さらなる問題提起と議論が行われてきたが、未だ解決されないままである。②JR東労組一部OBの問題とは、自らが革マル派であると表明している「浅野」氏が、2014年7月にJR東労組東京地本を「御用組合」と批判する講演を行ったことに端を発する。JR総連及び傘下の単組はこれを組織破壊行為とし、党派による介入を断固として認めないこと、同OBらが開催する「敬松塾」を認めないことを決定、議論してきた。しかしその過程で、関東地本内において、JR東労組一部OBの「水沢」氏が関東地本青年部役員を集めて「水沢勉強会」なるものを開催していること等が発覚。中央本部が関東地本に対して勉強会内容を明らかにするよう求めてきたが、いまだ明らかにされておらず、関係者間の議論が進まず、組合役員間の対立になっている。③中央本部は、貨物労組の最大地本におけるこうした問題を貨物労組の総団結に関する重要な組織問題であると認識し、看過できないことから、大会における真摯な議論を要請する。』

日貨労内で、青年部役員を対象とした怪しげな革マル派勉強会!?

どうやら、日貨労の関東地本内部もさることながら、中央本部と関東地本との間の役員人事や組織運営をめぐる主導権争い、属人間の内部抗争が、全国大会の場で一気に顕在化し、内情が溢れ出した様子。公式・非公式を問わず、様々な「勉強会」や「塾」が乱立しているようだが、青年部役員の洗脳教育を行っているのか。中央本部は、関東地本内における革マル派勉強会の実態を暴くことに躍起になっているようだが、結局は特定の人物を槍玉にあげ、レッテルを貼り追及するだけなのか?どのように総括するのか。目が離せない…。

異常な労働運動と決別し、JR連合・貨物鉄産労に結集しよう!